

## テーマ：ホストゲスト相互作用を介した環状中分子化合物による複合体材料の創製

環を形成する原子が 12 個以上である環状中分子は合成、調製の容易さ、標的への結合性、薬理効果などの観点において低分子、高分子医薬品に次ぐ第三の医薬品の候補として注目を浴びている。一方、化合物自身の生体内での安定性および毒性については問題がある場合が多く、分子末端を他の官能基に変換したプロドラッグ法が検討されている。その際、生体内での安定性と毒性を軽減し、薬理効果を保持する普遍的方法論が必要である。そこで分子の共通項である「環」を利用したホストゲスト相互作用による環状中分子化合物-複合体形成法の確立を目指した。本研究では環状ホスト分子はバリノマイシン、ゲスト分子は分子同士の相互作用が予想されるカチオン性の分子を選択し、核磁気共鳴法を中心に評価を進めている。